

資料2 岩手県南部を中心とした古代の住居跡の変遷（第2図）

表記について概述する。時期区分については既述の編年表にしたがう。

**第I～IV群期** 古墳時代に相当するものであるが、I・II群期にはカマドが付設されない。四隅の角張った均整な正方形プランと、対角線上にのり、やや中央による4本の主柱穴をもつ貯蔵穴様のものは既にある。規模に異同のあるものが組みあわせになる。III群期にはカマドが付設されはじめるが、その状況にはばらつきがあり、齊一性はない。長大な煙道は未確認である。第IV群期にはカマド本体・長い煙道とともに備えたものが出現し始める。

以上の時期の竪穴軸方位は変化に富み、一定の傾向性は示さない。なおIII群期の西大畠例には主柱穴以外に西辺中央の壁直下に柱穴様の2ヶのピットもある。

**第V・VI群期** 四隅に軽い丸味をもつほぼ正方形なプランと、先と同様に対角線上にのるが如くに配置された4本（稀な大規模例では6本以上）の主柱穴、北壁に付設されたカマドなどを有する構造をもつ。齊一性はかなり強く、構築法の確立を示すかのようである。ただし長大な煙道の有無にはばらつきがある。明白なそれをもたない若干例も混在する事実がある。カマド焚口部には礫を門状に配置する。それより古期と思われる例では、カマド本体部内外両面にも礫を用いるものがあり、さらにカマドの対辺（多くは南壁）中央壁直下にも柱穴様のものをもつ例がある。建物主軸方位は「磁北にほぼ一致→やや西に偏す」という変遷をたどるらしい。一辺8m～6m程度の大規模なものと、5m以下の中小規模のものがセットになる。

**第VII群期** プラン・主柱穴配置などは前代に共通するが、建物主軸方向はさらに西に偏し、かつカマド袖部への土師器類（長胴甕型を主とするが、各種の器種がある）の芯としての埋置が見られはじめる。主柱穴は4本を中心とするが6本のものもあり、さらにその存在は不明確なものも増加する。前代に比し不均整なプランをもつものが増加する。

**第VIII群期以降** 集落跡と思われる遺跡の例のみをとる。変化の度合がきわめて大きい。

- (1) 柱穴配置 主柱は4本と思われるが、そのすべて、あるいは2本が壁直下に寄るものも増加する。さらに柱穴配置の判断としない例がさらに増加する。
- (2) 側壁・板材を用い、「腰板乃至壁風」のものをつくり出す例も増加する。その四隅には支柱様のものが伴なう。
- (3) カマド構築部位、北壁も継続するが、東壁・南壁などへ変化する例が圧倒的に多くなり、かつ壁中央ではなく若干いずれかに偏した位置となる。江釣子村猫谷地においては南壁→東壁という変遷を示す。

カマド構築法は、本体にも板状礫を用いるもの、煙道部に甕を横転位に据えるものなども加わる。所謂くり抜き式のものが多い。

- (4) (竪穴住居跡以外に) 掘立柱建物・井戸・大溝も集落の構成要素に加わる例も現われる。

**X～XI群期** 長方形プランで、側壁直下に多くの柱穴をもつ例が増加する。カマドなど特別な施設はほとんど見られない。これらの中には中世に入るるものも含まれる可能性がある。

**第VII群期以降**については、遺跡の性格別の遺構の把握（構造・組みあわせ）が必要である。それは掘立柱建物についても同様である。

## 《註記》

① 高山遺跡	TK02住	高山遺跡	岩手県水沢市文化財報告書第1集 高山遺跡調査委員会・水沢市教育委員会	昭和53年3月
② 猫谷地遺跡	CH74住	猫谷地遺跡	CH74住居跡 岩手県教育委員会調査	
③ 面塚遺跡	SI02住	面塚遺跡	現地説明会資料 水沢市教育委員会	昭和55年6月
④ 西大畑遺跡	Cf53住	西大畑遺跡	岩手県文化財調査報告書第60集 東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書—XI—	昭和56年3月
⑤ 膳性遺跡	G-15住		岩手県教育委員会・日本道路公団	
⑥ タ	J-7住		現地説明会資料	
⑪ タ	F-11住		(財)岩手県埋蔵文化財センター	昭和54・55年
⑬ タ	C-2-2住	膳性遺跡	なお、膳性遺跡については、高橋与右衛門氏より教示をうけた。	
㉒ タ	G-8-1住		深謝する。	
㉓ タ	H-2住			
㉔ 玉貫遺跡	I-12-1住	玉貫遺跡	現地説明会資料	
㉕ 玉貫遺跡	C-11住		(財)岩手県埋蔵文化財センター	昭和54年8月
㉗ 今泉遺跡	Bg62住			
㉘ タ	Bd59住			
㉙ タ	Bd03住	今泉遺跡	岩手県文化財調査報告書第60集 東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書—XI—	昭和56年3月
㉚ タ	Bi24住		岩手県教育委員会・日本道路公団	
㉛ タ	Cb24住			
㉜ 石田遺跡	Df59住			
㉖ タ	Dd03住			
㉗ タ	Df09住	石田遺跡	岩手県文化財調査報告書第61集 東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書—XII—	昭和56年3月
㉙ タ	Cb21住		岩手県教育委員会・日本道路公団	
㉚ タ	Cf56住			
㉛ タ	Da56住			
㉜ 尻引遺跡	第6号住	尻引遺跡	尻引遺跡調査報告書 文化財調査報告書第17集 北上市教育委員会	昭和52年3月
㉞ 上平沢新田遺跡	Ah15	上平沢新田遺跡	岩手県文化財調査報告書第52集 東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書—III—	昭和55年3月
㉟ 鳥ノ海A遺跡	第2号(Aj56)		岩手県教育委員会・日本道路公団	
㉟ タ	第3号(Ag53)	鳥ノ海A遺跡	岩手県文化財調査報告書第59集 東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書—IX—	昭和56年3月
㉟ タ	第4号(Af03)		岩手県教育委員会・日本道路公団	